

早期発見

離れた部屋にすばやく^{※5}お知らせ。



避難サポート

火元を部屋名^{※7}でお知らせ。

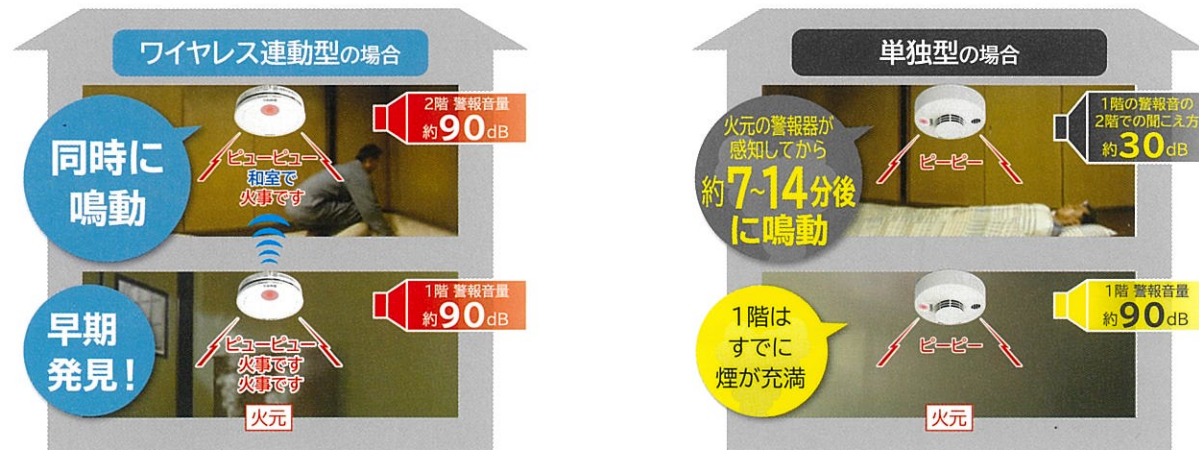


火災の早期発見には、『連動型』が「圧倒的に」効果的！

火災時、すべての警報器が鳴る連動型なら、緊急事態を家中にすばやく^{※5}お知らせ。高齢者の寝室から遠い和室で火の手が上がった場合でも、火災発生に気づきやすく、早期避難が可能になります。

NEW 発報時に火元を音声メッセージ（登録した部屋名称）^{※7}でお知らせ

火災時、発報と同時に火元を特定。火元がすぐにわかることで、迅速な避難経路確保の手助けとなります。



夜中の火災・・・2階で寝ているときに、1階でくん焼火災^{※6}が発生。■各階の住宅用火災警報器が鳴動する時間を比較した当社実験データ（くん焼火災^{※6}において、単独型・連動型を別々に実験実施）
※5) 電池式 ワイヤレス連動型の場合、約0.5～10秒。（周囲の環境によっては20秒程度かかる場合があります。） ※6) くん焼火災：けむりが多く発生する火災（寝たばこなど）

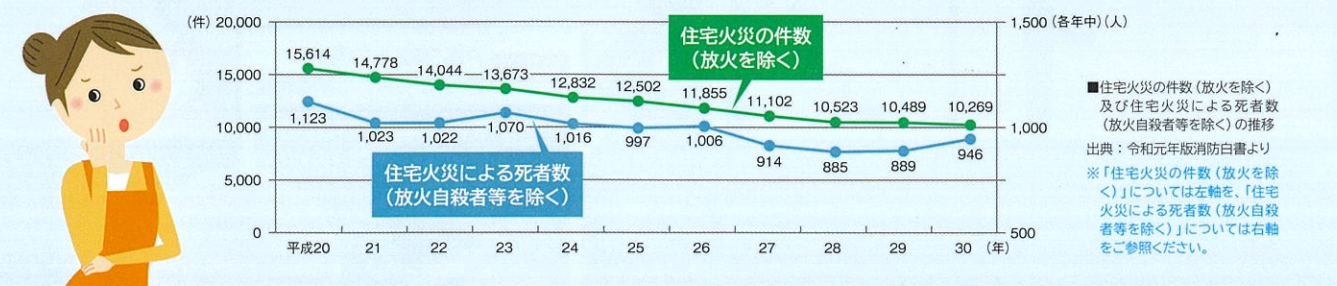


設定できる設置場所名称



※7) 親器・子器それぞれで登録が必要です。登録方法は「住宅用火災警報器 総合カタログ」をご覧ください。

高齢者や子どもが暮らす住宅（2世帯住宅など）や高気密住宅・高断熱住宅には、『連動型』がおすすめです。



※1) 親器1台、子器14台まで。（住まいるサポ親機、移報接点アダプタは、それぞれ1台で子器1台分と数えます。） ※2) 障害物がない場所での水平見通し距離。 ※3) ピーク値。検定基準にもとづく自社測定による。 ※4) 年2回の動作試験を実施した場合。電池寿命は使用条件などによって短くなる場合があります。

住宅火災による死者数は『高齢者』の割合が高く、原因は『逃げ遅れ』が多い。

